



E.D.I.

環境デザイン研究所
ENVIRONMENT DESIGN INSTITUTE

基本データ

所在地／
神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
発注者／学校法人慶應義塾
主要用途／学校（大学）
設計／建築・外講・サイン
（株式会社所設計と共同設計）
敷地面積／352,357.33㎡
建築面積／7,363.10㎡（今回）
55,828.62㎡（全体）
延床面積／38,207.37㎡（今回）
169,732.84㎡（全体）
構造・規模／地下部分SRC造、地上S造
中間層免震構造
地下2階、地上7階、
塔屋1階

基本計画

2004年1月～2004年12月
基本設計／
2005年7月～2005年12月
実施設計／
2006年1月～2006年5月
施工期間／
2006年8月～2008年7月
受賞層等／
・CASBEE横浜認証制度第1号認証Sランク
・第10回日本免震協会作品賞受賞
（2009年6月）
・第10回特別記念「TILE DESIGN CONTEST」
特別記念賞受賞（2009年9月）
・第54回神奈川建築コンクール
優秀賞受賞（2009年9月）
・第16回空間デザインコンペティション
作品例部門 銅賞受賞（2009年9月）



藤原洋記念ホール：
舞台後方の大扉を開放すると日吉の森を望むことができる



綱島街道側外観：
街並のスケールと調和を図った緩やかな壁面構成



施設エントランスと地下鉄出入口を有機的につなぐサンクンガーデン。利用者の憩いの場であるとともに駅周辺の混雑緩和に寄与している

『EDI REPORT』では、竣工物件のプロジェクト概要と、設計・監理時の配慮点などについて 2008.10.1
随時、設計担当者からご報告していきます。

慶應義塾日吉キャンパス協生館

（環境設計部：久住 郁子）

▶「開かれた学塾」-社会・地域連携の舞台

協生館は、慶應義塾創立150年記念事業として、「協力して生きる力」を育む場、学生・教職員をはじめ地域の方々との連携をはかる「開かれた学塾」を体現する場として計画されました。従来の大学施設とは異なり、様々な機能の施設で構成されています。50mプールなどの運動施設を地下にかかえ、教室と研究室を中心に、イベントホールや講堂、研修宿泊施設、支援施設（カフェ・コンビニ・レストラン等）、保育支援施設、クリニックセンター等、地域利用にも配慮した施設を備え、これらの施設を貫通する吹き抜け空間で連結しています。低層部を中心に、大学関係者だけでなく、地域の方の利用も可能になっており、社会・地域との連携により、教育・研究が触発されることを意図しています。

▶陸上競技場との一体感

緑豊かな日吉キャンパスの南西に、前面に広がる陸上競技場と日吉の森に対峙する形で配慮されています。階段状の断面構成により、陸上競技場さらにはその先に連続する森と一体感のある雰囲気を作り出しています。

一方、綱島街道側は日吉の街並みとの調和を意識し、建物壁面を後退させ、並木と歩行者空間を整備しました。建物は中央で分節し、さらに上下方向を内部機能により4層構成で積み上げ、壁面はガラスとタイルを市松状に組み合わせた細やかな構成により、街並みのスケールを意識した外観としています。

▶コミュニケーションを誘発する「知のパサージュ」

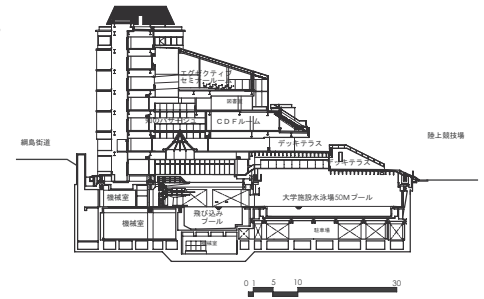
建物の内部は、「知のパサージュ」と呼ばれる、吹き抜け空間を中心とし、多様な施設が連続する構成としています。この明るい吹き抜け空間で各施設をつなげることによって、東西・南北に視線が通り、「見る」「見られる」関係が生まれ、多くの世代が交流し、多様なコミュニケーションを誘発し、知の創出を期待させる空間を実現しました。

▶世界に発信する学び舎——地球環境建築

人・環境に優しい建物として様々な取り組みを行っています。長寿命な建物としての高い安全性と、吹き抜けを含む複雑な空間構成を中間層免震構造により実現しました。また、省エネルギー化とランニングコストを抑えるため、水泳場や研修宿泊室など温熱負荷需要の多い施設の特徴を活かしたコージェネレーションシステムの採用や知のパサージュ、水泳場などにトップライトを設け、自然採光を積極的に行っています。市営地下鉄グリーンライン日吉駅出入口へ繋がるサンクンガーデンの整備、綱島街道沿いのケヤキ並木と歩行者空間の整備によって地域に緑と憩いの空間を提供しています。その結果、「CASBEE横浜認証制度」において、最高位Sランクの第1号認証を取得しました。地球環境に配慮した高いグレードを持つこの環境建築は、慶應義塾が掲げる「環境・安全・健康キャンパス」を具現化し、未来へのコンセプトを世界に発信する舞台としてデザインされています。



陸上競技場側外観



陸上競技場イベント時：
陸上競技場と一体利用される
階段状の屋根

知のパサージュ：
施設の中心となる明るく開放
的な吹き抜け空間



藤原洋記念ホール：
500人収容可能な大学講堂 音楽ホールとしても高い水準を持つ



地下1階水泳場：
50M国内公認プール 地下でありながらトップライトの柔らかな光が降り注ぐ明るい空間を実現